

全体会午後の部Ⅱ

司会者 それではただ今より全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。まずは後半1本目の意見発表です。G中学校2年 a e さん「自分の弱さに気づいたとき」です。お願いします。

自分の弱さに気づいたとき

G中学校2年 a e

これから話すことはずっと誰にも言えなかったこと、自分の心の中で閉ざしてきたこと、苦しかったこと、後悔したことです。

今日はこの場をお借りして、すべて話したい



と思います。

私は友達に悪口を言われました。はじめは「時が解決するだろう。」という気持ちで軽く自分の中で流していました。しかし、段々ひどくなり、無視されるようになって、私の悪口を言う友達が1人、2人と増えていきました。その時はただ1人にならないために、必死で自分のことしか頭になかったのかもしれませんが。なんにも言わずに我慢し続けました。

でも私はすごく弱かったです。自分の周りに友達が欲しくて、1人になるのが恥ずかしくて、いろんな子に仮の自分を作っていました。そんなことをしているうちに本当の自分がわからなくなってしまって「今自分がすべきこと」とか「生きる意味」とかがわからなくなりました。

それでも1人にならないために友達が悪口を

言ったら私も悪口を言うし、友達が制服のスカートを短くして、派手にしたら、私も倍に派手にしてきました。そんな意味のない努力をしているうちに、私の悪口を言う子はいなくなりました。

「こんなに単純なこと、ただ考え方を合わすだけで1人にならなくて済むんだ。」

そう考えた私は、一番悪口を言われるつらさ、流しても流しきれない涙を知っているのに、何人もの友達を傷つけてしまいました。たとえ友達の言っていることが間違っていたとしても、考え方を合わせていくのが当たり前と思っていた、自分が悪いとは思いませんでした。

そんな日々が続いていたある日。自分の弱さに気づく出来事がありました。それは私と仲のいい友達が話していた時のことです。友達は私にははっきりと言いました。

「弱すぎる。もっとしっかり自分を持って…」と、たった一言。でもこの一言がなかったら、私は間違った考え方を持ったままでした。自分の弱さを教えてくれた友達に、強さを教えてくれた友達に「ありがとう」という気持ちしかありません。

「ひとごと」から「わがこと」へ

自分のことだけではなく、周りのことも考えて間違っていることは間違っていると言えるような強い心を持ちたいです。ご静聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて後半2本目の意見発表です。H中学校3年野田未来さん「差別解消に向けて」です。よろしくをお願いします。

差別解消に向けて

H中学校3年 t

「差別を無くすことは無理だ」あの頃、私はそう思っていました。そしてその思いは差別に

ついて知っていくにつれてどんどんますばかりでした。なぜなら私の中にも、おそらくみんなの中にも、小さな差別の根が確かに残っていることを知っていたからです。

私は中学生になり、とある人権活動に参加しました。そこで出会った先生は、私達にたくさんの差別について教えてくれました。例えば、差別は古くは弥生時代、米作りをするにあたって人々を指導するリーダーとそうでない人との間に生まれたらしいとか、豊臣秀吉の兵農分離によって身分差別が深刻になったとか、他にもたくさんの興味深い話を聞かせて頂きました。そして、今日では差別と言っても、部落差別や障害者差別、人種差別に男女差別など様々な種類のものがあることも教えてくださいました。先生は言いました。

「どうかこの活動に参加してくれたみんなだけでも差別をしないようにさせないようにしよう」

私はそれを聞いて、「こんな古くから、しかも種類も多い差別を無くすなんて無理だ」と恥ずかしながら、そう思ったのです。もし町で見知らぬ外国の方がいれば少し私はとまどってしまいます。障害者の方がいれば私は気がつけばその人をじっと見たりしてしまいます。他の人にはそんなことはしないでしょう。確かに、あからさまにはありませんが私の中にも自分と違う人を見れば心に壁をつくってしまう差別の根が残っているようです。

そこでよく考えてみれば、誰にも全く差別されない人とはどんな人なのかという疑問が浮かびました。白人で若い男の人で、お金持ちで見た目も良く、その上誰にでも優しく欠点も無く・・・そんな人はいるのでしょうか。いたとしても数えられる程度ではないのでしょうか。そしてその人達以外は差別されるべきなののでしょうか。それは絶対に違います。同じ人間同士、何をどう差別する必要があるのでしょうか。違うことが当たり前だと皆分かっているはずなのに。私は自分より劣っている人を見つけて、差

別したくありません。

以前ある人に自分がしている人権活動について話をしました。途中までは楽しそうにその人は話を聞いていましたが、突然「一緒に行っている子はどこの子？」と聞いてきました。私はその子の名前と出身はたしかあそこの地域だと伝えました。すると、その人はすこし渋い顔をしました。そういえば先生が私達の住む所の近くにもかつて部落だったところがあると言っていたことを思い出しました。そしてそれはさっき私が話していた子の出身地でした。私は急にポッカー胸に穴があいたように寂しく、そしてとてつもなく悔しくなりました。



「そんなこと関係ない」

気がつけば私はそう叫んでいました。ただただ悔しさがあふれて止まらないのです。出身地だけでその子の何がわかるというのだろうと強く思いました。それ以来、その人は私に友達の出身地を聞いてくることはありませんでした。このとき、たった一言だけでも勇気をもって言えば、差別を無くす、その人を変えることができるということを学びました。その日から「差別を無くすこと」は「無理」ではなく、「可能」だと私は思うようになりました。

差別はいつの時代も消えることはありませんでした。しかし、時が進むにつれて、少しずつではありますが、確かに減っていつていると思います。それは江戸時代の被差別身分の人達によって起こされた「渋染一揆」しかり、明治時代の部落差別解放をめざした「全国水平

社」しかり，過去のたくさんの人々の努力によって成しえたことです。そして，今の時代，根強く残った差別は私達の努力，勇気で無くすることができると私は思うのです。今こそ，誇り高き彼らの意志を引き継ぎ私達が差別を無くすために立ち上がるべきだと思うのです。

私は今も人権活動に参加しています。そこで友達とたくさんの差別について勉強しつつ私自身を変える努力をしています。いくら他の人に言っただけで自分自身に偏見があり，差別をしてしまえば差別解消など成しえないからです。私はこれから差別についてもっと勉強して正しい知識を手に入れ，さまざまな人と積極的にふれあうことで私の中の差別意識を無くすように努力したいです。そして生まれたところや目や肌の色が違うだけで人間を決めつけないようにしていきます。私はこれから「差別を共になくしていこう」と呼びかけられるような人になりたいと思っています。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて後半3本目の意見発表です。W中学校2年 a d さん「第一歩」です。よろしくお願いします。

第一歩

W中学校2年 a f

突然ですが，私のいとこのおじさんは，部落出身だそうです。それを初めて聞かされたとき，私はまず驚きました。そして学校で聞いていた「部落」が初めて身近になった気がしました。今まで，どこか遠いところのことで，自分には関係のないことだと思っていました。けど，これまで私に優しく，あたたかく接してくれたおじさんが，あの「部落」なのかと思い，深く考えるようになりました。当たり前のことだけど，やはり部落出身であるかどうかなんていうことは，その人の人格とは関係ない。みな同じ人間なんだと思うようになりました。

母からさらに話を聞くと，祖父はおじさんとの結婚に反対していたそうです。私はこの話を聞いて，どこか悲しくなりました。私の知らない私の近くに部落があるだけでなく，まさか部落差別が起こっていたなんて。ここで私は，ようやく部落差別を身近に感じました。もっとよく学んで，部落差別をなくしていかないと，私の祖父のように部落差別を当然のようにする人や，おじさんのように部落差別を受けて悲しむ人を出してしまう。すると，これからの子どもたちも，平気で差別をしてしまうかもしれない。そして，人を悲しませる大人になるかもしれないし，悲しむ側になるかもしれない。そんな悲劇が起きるのは絶対に嫌だ。

私は今まで，本当に心の底から部落差別のことを考えてはいなかったのだと気づかされました。身近になって，やっとな真剣になったのです。そんな自分を，恥ずかしくも思いました。部落差別は許すことができません。そのことを，身



をもって知ることができました。

私は最近，「人権を語り合う中学生交流集会」の実行委員会に参加させてもらいました。最初は，「部落差別は絶対にいけない」と語ったりしている会なのかと思っていましたが，実際に参加してみて考え方が変わりました。思っていた以上に真剣に，部落差別について前向きに取り組んでいました。私はその場において，つい「すごいなあ」と，まるで他人事のように思っていました。でも，同和地区という言葉がただで，他と何も変わらないと

ころにたまたま生まれ、住んでいるだけで、「部落の人間は汚い」などと差別される人、そして何よりおじさんの気持ちになって考えると、やっぱり私はまだまだなんだと思い知らされました。私はこれから、もっと交流会に参加して、部落のことについて学びたいと思いました。

また私は、部落差別のことを学んだおかげで、他の人権についても見えてきました。確かに今までお話ししたように、部落差別は正しくない知識から生まれた許されない差別です。ですが、差別は他にもたくさんあります。例えば、世界では人種差別をはじめとしたいろいろな差別があり、すべてしてはいけないことだと学校でも学びます。ですが、みなさんは知っているでしょうか。同性愛者や「オタク」と呼ばれる人たちも、差別の対象となっていたりするのです。このように、あまり知られていない差別に出遭った場合、どのように対処すればいいのでしょうか。どうすればいいのか分からない子どもたちは、どうしていけばいいのでしょうか。

部落差別は、許すことのできない差別です。私はこの差別をテコにして、今、身の回りにあるすべての差別に目を向け、少しずつでもなくしていきたいと思います。部落差別のことを学んだからといって、他の差別をして良いというのではなく、「すべての差別はすべていけないんだ」と思い、行動していきたいと思います。

母からの、「いここが部落出身である」という告白は、私が変わる第一歩だったのかもしれません。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。それではこれから意見発表を通しての討議に移りたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。また前半で発言しきれてない人や、付け加えたい内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますのでぜひ発表してください。なお記録の関係上、発表者は学校名・学年・

名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。先に、前の方お願いします。

A中学校 w a eさんの話を聞いて、僕も自分がいじめられるのが怖いために、結構周りの人に合わせて、他の人をいじめてしまったりとかっていうことがあって、でもその度に自分がやっていることが本当に正しいのかと思って、結局間違っていることに気付くのですが、自分の心の中に残るこの差別心がどうしても、あとちょっとなのに消えないんですけど、それをいきなりなんですけど、大湾さんに教えてもらいたいんですけど、教えてもらえますか。どうやったらその差別心が消えるか。



司会者 大湾さんお願いします。

大湾さん もうできよる。大丈夫。あのいっぺんには変わらんからな、どんな人でも。ほなけどうやって人の前に行って、自分のずるいとこ悪いとこしつかり言えるようになっていくことが自分を正していく唯一の方法やと思うわ。あとほういうふうにさらしていく中で、「ああ頑張って言うてくれたね」というふうな暖かい人たくさん集まってくるから。まだ一歩踏めているから大丈夫よ。それでいいの。無理に変わらなくていいの。はい。

G中学校 a a 三つの発表を通して、僕が思ったことは、違うところを受け入れられるようになりたいなと思ったことです。やっぱりすべてがまったく同じ人間なんていないし、みんなそれぞれ違うところがあるからみんなのいいところがあるわけなので、僕はそんな違いをちゃんと受け入れられるような人間になりたいです。

F中学校 a g 3人の話で、苦しかったことをちゃんと言っていたことや、差別は絶対なくなることや差別のことを詳しく知って対処することなどを聞いて勇気をもらいました。ありがとうございます。

G中学校 a h 今日、後半と前半の作文を聞きまして、自分の考えをうまく話すことは僕は苦手なんですけど、今日の話聞いて、今度の人権学習で自分の考えをもっとうまく話せるようになりたいなと思いました。



G中学校 e 私は、二つ目の作文を聞いて、私も今まで差別はなくならないと思ってたんですよ。というのも障害のある人たちのことを見たら違う目で見てしまうし、知ってる子でも、障害の特別な教室に行っている子を見たら、あああの子ってしてしまうので、絶対になくならないと思ってたんですけど、今回のことを通して、やっぱりその勉強して知ること、それは個性だと認めることができた

ら、なくなっていくのじゃないかなと思いました。

F中学校 a i a eさんの話を聞いて、自分で自分の弱さに気付けたことはすごいと思いました。僕も早く自分の弱さに気付いて、生活を見直していきたいです。

W中学校 a d tさんの二個目の発表で差別はなくならないと思ってたと言っていたんですが、私も思ってた、それでtさんの話を聞いて、差別はなくならないと思ってやってたらなくならなくて、差別はなくなそうと思ってやらなければなくならないんじゃないかなと思いました。



F中学校 a j G中学校のa eさんの話を聞いて、みんなに合わすだけでは、だめだと思いました。僕も人に会わせたりすることがたまにあるので、それをやめていきたいと思いました。

G中学校 a k 3人の意見を聞いて、差別が身近にあることを改めてわかりました。なので私は、よくそういうのを見ても、見てるだけで、何かあまりかかわりたくないという思いの方が強いので、その考え方から変えたいと思いました。

G中学校 v a eちゃんの意見を聞いて思っ

たことなんですけど、多くの中に紛れている周りに合わせていると、数的な意味でめだたなくなるから、たたかれる心配とかもなくなるのはすごくよくわかります。それでたくさんの中に紛れていると、なんて言うんですかね楽ですよ。なんか気持ち的に。でも、自分は紛れたくないと思っている人もいますはずで、それで、だけど、楽な方にいたいと思うのも、そういう思いをどっちも持っていると思うんですよ。私は、別にたくさんの中でも一緒にいてもいいと思うし、自分はどっちかという一人ですることにはなるべく一人でやりたいし、一人でいたいと思う時も結構多くある方なんです。なんて言うのかな、大勢と一緒にいる人も、一人でいる人も、どっちも正しいんです。悪くないんです。なんというのかな。正義の反対は悪じゃないと思うんですよ。正義の反対は正義です。たとえば、ある正義があったとして、その正義に反抗するものがあつたとします。その正義から見たらその正義に反抗してくるものは悪なんです。そう見えてしまう。自分とは違うから。それで、でも、その悪と呼ばれている人たちの視点から考えてみると、その悪と呼ばれている人がやっていることはその悪たちからしたら正しいことで、正しいと信じているからその正義に反発するわけじゃないんです。だから、結局どっちも正しいと思って信じていることをやっているから、どっちも正しいんですよ。だからどっちも正義だと思うんです。たとえば長くなったんですけど、一人になりたくないから周りに合わせるといふ人と、大勢の中に紛れてしまうのは嫌だから一人になるという意見も、どっちも正しいです。だから、なんていうのかな、紛れるのはやめて自分は一人になるぞみたいな感じじゃなくてもいいと思います。それで、ただ正義が正義と認識されるためには、やっぱりどこかで悪が必要になってくると思います。それで、その悪とは何かと考えた時に、それはも

うみなさんはわかっていると思いますが、それは差別する心とか差別をする言葉だとかそういう認識だとかが絶対的な悪になるんだと思います。それで、繰り返しになるんですが、大勢の中に合わせるのもいいことだし、いいことです。それで、ただそこで誰かを何かを差別してしまつたら、たとえば、紛れるのが嫌だからって、一人で頑張っている人とかを差別するようなことを思ったり言ったりしてしまつたら、そしたら、それは悪になってしまうんですよ。差別はもう悪です。これは絶対私が自信を持って言います。でもみんなもたぶんわかっています。ただそれがわからなくなっている現実があるから、わかってない誰かが地域だとか社会だとかに少なからずいてしまうからこそ、差別という悪が、tさんが言ってくれたように、ずっと大昔から続いてきてるんだと思います。それで、悪と闘わない正義はもうそれは正義じゃないです。それで、だから、自分たちは悪と闘わなければいけないです。一人でいたい人もみんなと一緒に仲良くしていたい人も、その差別と闘わなくてはならないんです。闘かうための武器と仲間はここにたくさんいるじゃないですか。だからそのところを心に留めておいてくれたら、差別はなくせます。絶対。無理なんかじゃないです。それで、たとえとかが宗教くさくなってややこしくなったと思うんですが、これで終わります。

F 中学校 a l 二人目の作文を聞いて、僕も最初は差別はなくせないと思っていたんですけど、こう聞いてみて、一人一人が意識したり、呼びかけることでなくせるということが分かったので、僕も意識して差別をなくしたいと思います。

F 中学校 a m 僕も最初は差別の心はあつたんですけど、みんなの話を聞いて、やっぱり差別はいけないなと思いました。

C中学校 a n 私は、今日ここに来る時、発表しようと思って来てなかったんですけど、午前の大湾さんの講演とかvさんとかtさんとかの強い思いを聞いて、発表を私も一回はしたいなと思いました。で、手を挙げたんですけど、G中学校のa eさんの意見を聞いて、仮の自分を作ってしまうと言いましたが、私は周りにいる全員に本当の自分をさらけ出す必要はないと思います。で、本当に信頼できて、私のことを分かってくれると思う人だけにさらけだすんでもそれはいいと思います。なので、私はさらけ出せる本当に信頼できる人を一人でも多く作っていきたいなと思いました。



T中学校 z tさんの意見についてなんですけど、まあさっきも言ってたように、差別がなくなりたいと思ってたと言っていたんですけども、僕も正直そうだって、まあついさっきその思いが完全になくなったんですけど、誰か忘れたんですけど、そこら辺の人の意見で、この作文を聞いて、これからの人権学習の考え方が変わったみたいなこと言っていたんですけど、そういう人たちが全国で一人一人増えていくことによって、差別がちょっとずつでもなくなっていくと思うし、こういう機会もこれからどんどん増やしてもらったら、なくなると思うし、今日僕は中学生交流集会に初めて来たんですけど、今日来てよかったなと思いました。以上です。

G中学校 a o 差別する人はその人を嫌うから、差別をしに人にかかわりにいくと思うんですけど、その差別をしに人にかかわりにいくのではなく、やさしく人に接するために人にかかわりにいけるようにしたらいいなと思いました。

C中学校 a p W中学校のa dさんの話を聞いてふと過去のことを思い出したので、ちょっと書き出したので少し言わせて下さい。私は小学校の時から野球をしていました。野球と聞いたらたぶん男子のスポーツと思う人が多いと思うんですけど、それは、小学校の時は全然そんな思いはなくて、ずっと何の区別をされることもなく、ただ普通にみんなと男子の中で生活していました。それが小学校高学年の時の野球の大会の開会式での出来事で、隣のチームの男子に、何で女子がここにおるんと言われて、今まで自分は差別されることにさらされることもなく、恵まれた環境にいたのだと思いました。だから、差別されたということにどう対処すればいいかわからないで、何も言えませんでした。中学校でも野球を続けました。そして、ある日、兄も高校で野球をしているんですけど、その兄が、おまえ女やけんって、何を特別に考えとんたと説教をされました。そこで、自分も男女差別だとかの差別意識を持っていることが分かって、もう自分は恵まれた環境にあったんだと思いました。差別意識を自分の中からなくしていくためには、まず学ぶことから始めたいと思います。今日のこのみなさんの意見を聞いて、私の中の差別意識が少し変わりました。これからまったくなくならせるように頑張りたいと思います。

C中学校 s 一つ目の作文を聞いて、僕は小学校6年から中1までの間、友達からまあちょっとだけですけど、少し避けられていました。たぶん、外見が悪かったんでしょうね。

僕、髪伸ばしてたんです。前まで。目が隠れるぐらいまで伸ばしてて、近寄りづらい雰囲気だったんです。中学校へ入って新しい友達もできるじゃないですか。でも、相手から話かけられないんですよ。近寄りがたいので、だから、野球部に入って坊主にしたんです。ぱつぱりとね。坊主にしたら、不思議とみんな寄ってくるんですよ。寄ってきて僕の周りで話をしてくれるんですよ。それが今までにないことだったんですよ。今までの人生の中ですごい嬉しかったんです。僕を中心としてくれるんです。だから、そういうこと、なんて言うんですかね。こう、外見でやっぱりみんなそういうことを考えるんだなと、その時思いました。それで、僕がその差別をされたんだから、僕がそのことをしたらいけないんだと思って、僕はできるだけ努力をしています。以上です。



G中学校 v さっきの意見に似ていて、私は、ちょっと話がずれるんですけど、家で聖書の会の人々が、月に1回資料を持ってきてくれるんですよ。それで、何月の持ってきてくれた資料だったか忘れたんですけど、やっぱり、それに書いてあったのは、やっぱり人って考えていることとか、その人の持っている心の持ち方というのかな、やっぱりその人と触れ合って仲良くなってから初めて分かるもので、その資料の中に書いてあった外国の人の意見だったんですけど、書いてあったのは。

それでやっぱり一番最初に見てしまうのは、やっぱり悲しいけど外見なんですっていうのを、おそらくその外国の人でも私たちと同年代と書かれてた気がするんですけど、やっぱり最初に見ず知らずの人を仲良くなれるかどうかをはかるためには、外見で見るしかないんですよ。とその外国の女の子がコラムの中にコメントしてて、やっぱり外見でしか判断できない、最初ほんとうに最初は。そうだと思うんですよ。それに書いてあったのは、外見をよくすることで、中身がいい人だとわかってもらえるようにしなければならないみたいな意見も、その資料、もらってきた聖書の資料の中に入ってた、やっぱり仕方ないことだと思うんですよ、外見が怖いから近寄りたくないと思ってしまうのは。ただ、外見というこの目に見える情報を飛び越えて、もう会った次の瞬間にその人の中身を知ろうとするのは難しいですけど。やっぱり、うまくまとめられなくなっちゃったんですけど。外見で決まっちゃうこともたぶん多いと思います。こんなたとえがいいのかどうかかわからないけど、やくぎの人だったりとか、外見で決めてしまう部分も確かあるけれど、外見で決めない人になってほしいです。



Y中学校 l 私は、身近に部落差別があるっていうのを学習でもしたことがなかったもので、知りませんでした。でも、今日、朝、この集会に来る前に、Y先生にY中学校にも部落差別があると聞かされて、初めてそれを

知りました。身近にはそんなに知らなかったから、とてもびっくりしました。おじいちゃんおばあちゃんからそんなこと聞いたことがなかったし、お父さんにももちろん聞いたことがなかったし、だから、今日この集会から家に帰って、このY町でどんなところに部落差別があるのかとか聞いてみたいし、私が部落差別の出身だったかもしれないし、そうだったら、びっくりするかもしれないけど、落ち込まないで、それをちゃんとわかりたいと思います。



H中学校 d vさんの外見についてで、ちょっと体験したことを話したいと思います。事件が起こったときは、たまたま部活帰りで、プーマのジャージを着てヘルメットをかぶって、自転車に乗って帰ってたんですよ。プーマというか色がゴールドなんですけど、いつもだったらちゃんと制服を着て、普通の女の子という感じで、後ろからは見えるんで、ちょっと旧道を走ってたんですよ友達と部活帰りに、ちょっと2列になってちょっとこうやって走ってたんですよ。いつもだったら避けるんですけどちゃんと。何も言われんですけど。でもたまたまジャージを着て、後ろから来て、ちょっとまた2列になって話に夢中になってたんですよ。後ろからおばちゃんが「何しよんであんた危ないだろ」みたいな感じで言うてきて、確かに危なかったんですけど、でも、これが外見の問題なんかわからん

のですけど、プーマのジャージを着とったけん悪いというわけではないんですけど、でも、そのおばちゃんはその印象があってそのジャージの背中を見て、たぶん言うたのかなと思ったんですけど。すいません、話がごじゃごじゃで。それと、H中のtさんが、差別解消にむけてのことについて発表してくれたんですけど、小学校でも自分の記憶の中では、小学校でも中学校でも部落差別のことは勉強するんですけど、そのうちの住んでいる地域の部落差別については勉強してないんですよ。私が通っているH中学校にも、部落の子とかいるんですけど、でも、小学校とかでも全然勉強せんかったし、そういうことについても、4年生からふれあい学習という人権の学習に参加していたんですけど、その時もまだ部落のこととか人権のこととかあまりわからなくて、H中に入って、中学生友の会とか、中学生のふれあいの会とかそういうんで、なんかこう、ここらへんにもあってみたいな、今まで知らなかったこと教えられて、ええそうだったんじゃないか思ったりして、ほういうふうに、入ってない子は、たぶんちょっとどこからか聞いたことがあるけど、でも自分がほんまにその地域なんかなあというのを知らん子もおるかもしれないし、逆に勉強せんかったのは、自分的にはその勉強してその子がいじめられたら困るけんやらんのかなあとか思ったりするけど、でも知らんよりは知った方がいいかなと思うので、なんかやっぱ小学校とか中学校でも確かにやりにくいということがあると思うけど、地元のことやけん勉強しとった方がいいと思います。すいませんなんかごじゃごじゃして。以上です。

司会者 すいません。急なんですけど、去年、ここでお話をしてくださったAさんが、今日、来てくださっているんで、一言お願いします。

Aさん どうも、Aです。すいません、あまり

強制はよくないと思うんですけど。この会があるというのを昨日森口先生から聞いて、ちょっと昼から用もなかったんで、ちょっと来させてもらったんですけど、やっぱり去年講演させてもらって思ったときとやっぱり一緒に、中学生のエネルギーなというか、力をもらって、去年終わったときとかに速攻自分の周りの友達とかにネットワークを通じて、こういうのが徳島であったよみたいなんで、結構反響も多かって、今だに人権の話とか部落差別の話も友達とかとするんですけど、リアルに昨日の出来事だったんですけど、今日の夜中のことで、夜勤で仕事終わって、まあ帰って、何人か僕の家におって、そこに今何歳だろうな、25、6歳の女の子が9ヶ月になる子どもを連れてきとって、まあ、たわいもない話をしよったんですけど、まあ明日何するん今日何するんみたいな話をしよって、まあ朝、午前中ダンスのレッスンがあって、昼から中学生集会へ行くよみたいな、わいも最初は自分の立場、自分が地区出身やけんね、なかなかこう自分の繋がつとる子になかなか自分が地区というのを言えんもんで、好きなダンスをやりよるんですけど、ダンス仲間の子になかなか言えんところがあって、まあ中には言える子もいたんですけど、まあそんな中でこうちょっと人権のとか道德のとか、にごしながら話をしよったんですけど、まあその子ももやもやしとった感じがあって、まあ言うても減るようなもんでもないしと思って、同和教育・部落差別全般の話になるんやけどみたいな、自分も地区出身やけん、そこで生きていきよるわけやし、これからは生きていかなあかんと思うけん、ほういう勉強をこれからどんどんしていかなあかんみたいな感じでその子に言うたら、その子が泣き出していきなり、25、6のかわいらしい女の子が泣き出して、実は結婚している旦那がおるんやけど、その子の間に9ヶ月の子どもがおるんやけど、自分も小学校の時に、

みんなもほうと思うけど小学校の時に同和教育の授業を受けてきて、まあ24人ぐらいの少ない学年で、うち4人ぐらいが地区の子で、その中で全員がクラス全員が一泊研修をして、部落問題についてごっつい勉強したって言うて、まあその子自身もまだまだ無知なところもあると思う、自分でも言よったんですけど、泣き出して、自分のほんまに好きな子が、友達ですよ、同じ同姓の。あの、やっぱり平気で差別するって言うて、たぶん今までためとって同和教育・部落問題のこととかを私生活の中で語ることもないけん、なかなかこう、ため込んでしまうんでしょうねやっぱり言える雰囲気やっぱりないけんね、周りに、ここだったらみんなたぶんすつと言えんと思うけど、一歩出たらなかなか言えんと思うんよねやっぱり、ほんな中でその子が自分の好きな子が好きな女の子が、やっぱり平気であっちの部落地区の方を指してあっちの子はなとか、自分の周り、友達の、違う子ね、



こっちの子に対して、あっちの子はどうやけんとか言うたりするらしいんですよ。でもそこでその涙は何なんかというたら、好きな子ほんまに好きでこれからは関わっていきたいと思とった子に、その自分自身は部落差別とかは絶対あかんと思とうけんね。頭でしつかり思とんやけど。ほんまに好きな子に対して、注意というか、そんなん言うたらあかんでえと言えんかったらしいんですよ。それがほんまに悔しいって言うて、それを聞いて、

わいもごっつい、つらあにはなったんですけどね。やっぱり、好きなけん、好きな子やけんからこそ、言わなあかんことなんかもしれん、絶対言わなあかんと思うんですよ。自分のほんまに信頼しとる子やけん、そういうのは言うてリセットして、間違った考えを正して、こう前に向いていかなあかんと思うんやけど、なんだろね、たぶん中にもたぶん何人かおると思う何人か。同じ経験、部落問題でなかったても何でも一緒と思うんやけど、いじめとかたたとえば友達の、さっき話してくれた「障害者あらいしてみいだ」みたいな障害がある人のまねをするような行為に対して、やっぱり注意できん時ってあるでえね。その自分というものをできんかったけんほれは悪いんではないと思うんですよ。でも、できん自分がおったときにその自分自身を受け止めて、それがまあ自分の弱さじゃないですか。弱い部分を受け止めて、これからその子やとどう関わっていききたいんかというのに切り替えて、やっぱりこいつらと仲良くおりたいというんだったら、やっぱり自分の中での「間違えとお」と感じたことは、友達の中から「間違えとおこと」をリセットしていく必要が絶対にあると思う。やっぱり真剣に話したら真剣に聞いてくれるし、まあほんでも馬鹿にするやつがおるかもしれんけど、ほんまにこう常に熱い気持ちでおったら、絶対にそれは通じるとわいは思っとるし、なかなか難しいこととは思うんやけどね。その女の子はなんかその話をしながら、こうまあ泣いてどうにもならんようになったんやけど、私やっぱりあの子のこと嫌みみたいになって、でもそうじゃないじゃんみたいな、でもまあほれで悪口いう子がおるけん、その子とかかわりたくないっていう子もそれはそれでありかもわからん、無理してつきあう必要もないかもしれんし、ほんまに好きだったらもう一回考え直して、あのとき実はこういうこと気に入らんかったんやけどと言とかあったりしてもよか

ったでないかなあという、逆に自分が同じ状況になって、Kちゃん仲がいいけど、Kちゃんが部落差別したとしたら、わいひょっとしたら注意できんかもしれんし、仲のいい子やけん大事にしたいけんからこそ、言えん部分があると思うんやけどね、でもそこをちょっと頑張って受け止めていききたいなというのは、今日、夜中学んで、今日いろんなみんなの話を聞いて、同じラインに立ててなんか同じこと考えさせられて勉強になりました。ありがとうございました。

A 中学校 w 僕も仲がいい友達だからこそ、そういう友達がいじめをしていたときに注意できなかったことがたくさんあるけど、今の話を聞いて、これからはどんなに仲がいい友達でも、そこを頑張ることによって、その友達が変わっていくってのも、僕もいくら仲がよくても注意していつてあげたいと思いました。



F 中学校 a p 注意しないことがやさしさじゃなくて、注意しあうことがやさしさだなと思いました。

G 中学校 a a 僕もやっぱり今までに仲がいいから注意できなかったこともあるけど、これからは仲がいいからこそ注意できるようになりたいです。

C 中学校 b さきほどの話を聞いて、僕はど

んな人が相手でもきちんとそこはだめだよと注意していける人になりたいと思いました。

J中学校 c 私も仲のいい子と話をしていたら、ある子の悪口を言っていて、その時私は心の中ではあまり言いたくないなと思っていましたんですけど、結局一緒になって悪口を言ってしまったことがありました。でも、みんなの話を聞いて、これからは誰かが悪口を言っていたら、ちゃんと注意できるようにしていきたいです。注意することができたらそれは自分のためにもなるし、相手のためにもなると思うので、それはどんどんやっていこうと思いました。



N中学校 a r 僕は前の学校で、友達の空気を読んでなんか悪口を言われている友達の周り囲んで、なんか笑ったりしてたけど、それがとても悪いことだと気付いて、これからは注意しようと思いました。

N中学校 w とても仲のいい友達だとしても、悪いことをしていたら、ちゃんと注意できるようにしたいです。

N中学校 a f 僕は今までに、たぶん友達が差別発言なんかをしても、気付かなかったり見過ごしたりしてたんだと思うんだけど、これからはそういうこともなく注意していきたいと思います。

司会者 すいません。卒業生のBさんお願いします。

Bさん 無理強いはよくないと思います。(笑)

司会者 すいません。

Bさん いいよ。可愛いけん許す。はじめまして、もとM中学校出身のBです。座ってしゃべってもいいですか。緊張してみんなみたいに立ってしゃべることができないので、座ってしゃべります。今みんなが、今日一日とか、作文読んでくれたのを通して、さっきとかは結構注意できるように頑張りますって、すごい意気込んで言うてくれよったんやけど、みんな逃げてもいいんやで。最初は大湾さんも言うてくれたけど、自分も中学生集会に参加しよったし、出身が部落やけん、なんか学校とかこういう場とかで、やっぱり一緒の人権に関することを学びに来たんやなっていう子らがおるけん、言えることとかいっぱいあると思うし。ここで言うたことと同じことを学校で言えますっていう子は少ないと思うんですよ。うちも結構そっちやって、ここで頑張りますって言って、その後に学校へ行ったら当たり前のように差別発言が飛び交いよって、やっぱりめっちゃほんまに自分が言いたいぐらい仲がいいっていう子にしか、その言葉の意味わかつとるっていうことが言えなくて、だまってしまうとか、話の中に入れないということが多かったんやけど、なんか、けどそれでも、やっぱり慣れなくて、こう勉強しよったし、その言葉があるという生活に慣れることができてなくて、私が高校の時に身につけたのは、友達が差別発言言よった時に、「いやちょっと大人のレディーが何言よん」とか、なんか人の悪口とか言よる時に、「もうせつかく顔可愛いのに口汚いで」とか、なんかこう注意…その子にその言葉の意味わかつてほしいけど。みんなわかつて言いよるわけやん

か、障害者を指す言葉ですっていうのをわかって言いよるけん、ほなけん、とりあえず私の友達に私の前だけでも言ってほしくなくて、言よったんやけど。みんなもっとすごい中学生パワーがすごいですね。こう意気込むのはほんとうに尊敬します。私もみんなに比べてできてないこといっぱいあるから、考えさせられることいっぱいあるけど、今よりも明日は自分を大事にして、友達も大事にして、家族ももうちょっと大事にできるように、その上で人権問題を深く考えていってもらえたらなと思います。M中学校の子はどこにおるん。えっM中学校の子はどこにおるん。えっおらんの。M中学校手を挙げて、3人ぐらい、ありがとう、4人、5人すごいな、4人おるんか。ほんまに、なんかまだしゃべっていいのかな。えっと、まあ今M中学校の手を挙げてくれた中に妹がおるけん、ちょっと話にくいこともいっぱいあるんやけど、なんかこう家族を…、やっぱり人、人権学習って人にやさしくすることから始まると思うし、人にやさしくするっていうのは一番身近な家族にやさしくするということから始まると思っとなやけど、うちもみんなの時反抗期やって、親に「ハァー?!」とか言われて言ったり言われたり、しばきまくられたりしよったけど、もう今になったら、「ああ若かったな。もううちもそろそろちゃんと大事にしていけないかな。」と思えたんが今で、みんながそう言よるのがすごくて、すごいね、ほんまに。でなんか大学へ行きょんやけど、大学行ったら障害もつとる子とか結構普通みんなもうフリーな感じやけん、普通に歩いて普通に一緒に授業受けて、そういうまあ特別支援みたいに分けることは絶対ないんやけど、なんか障害があるけん、障害があるけん話しかけてあげようとか、こういうよりも、私個人としては、人として接したいと思える人がたまたま私の場合は障害のある人だけであつて、障害があるから優しく接しなとか、もし

ちょっとでもそう思つとる人がおるんだつたら、もうちょっと人として関係を持ちたいと思う人にいっぱい出会ってほしいし、出会いにどん欲になってほしいです。もういいです。長々と。ごめんなさい。

Aさん すいません。ちょっといいですか。さっきちょっと言われて、僕もちょうとそわそわしとったんですけど、そのエネルギーなんはすごい良いことと思うんやけど、やっぱり信頼関係ができてないと、なかなかほれを言うたところで、注意したところでという部分もあるんやけど、さっき言うてくれた通りやと思うけん、ほんまに無理もせんでいいと思う。もっと楽にいきたいと思うし、もっと「へえ～」と軽いききたいところあるけん、ほんなに力いれんでええと思います。ほんであとさっきの話でね、もう一個だけこれをおうと思っって言えてなかったんやけど、その女の子や女の子の旦那さんが地区出身の人で、おれつらいなと思っただんが、おれこの話してないな？してないな！。「実は自分の旦那は地区出身なんです。地区の人なんよ」と言うてきて、「あっそうなん」って言うて。ほな、なんで地区って、旦那は地区って言うてくれんらしいんですよ、なんで地区って知ったんって言うたら、旦那のお母さんの方から「うち地区なんやけど結婚してもいいんで。」みたいなこと言われたらしい。自分の旦那の親から聞いたらしい。旦那から聞かずに、ほんでほれもちょうと今、もどかしさを出しとるらしいんやけどね、ほんだらほの子はやっぱり聞きたいし、自分の旦那から地区であることを聞きたいし、聞きたいけどほれってまあ言うたら言うタイミングもあるんかもわからんけん、まあ待つとるらしいんやけど、どうも隠しとるところがあるらしい、部落であることを隠して結婚をして変に思われんだろうかみたいなんを、やっぱり旦那は気にしているらしい。ほれはほんまつらいな

と思って。でもほういう感覚持つことっていうのが、やっぱりこの世の中に部落差別が存在することやと思うし、じかに今のリアルタイムであることやけん、僕らの代とかだったら今まさにそうやし、みんなの代とかでもぼんぼんとおとなになったら出てくると思うんよな、今のうちから何が正しくて何が間違えとんかみたいなんをしっかりとこういうところで勉強して行って、やっぱり無知な人間ほど怖いんはないけん、やっぱり知識ちょっとずつでもつけて行って、あかんっていうだけでなくて、なぜあかんかというところまで踏み込めていけたらいいかなって思うんよね。まあさっきも言うたけど、友達に注意するせんとかいうのは、ほんまに無理をせんでええと思います。無理して自分があかんようになってもあれやしね、この空気やけん言えることとも思うし、もっと楽に行こう。



S 中学校 h 今二人が言ってくれたんですけど、逃げていいと言ってくれて、それほんとに自分もそう思うんですけど、ただひとつだけほんとに逃げて欲しくないことがあって、今までに友達がいろんな理由で死にたいと言った子が3人ぐらいいて、でも死にたいということは生きることから逃げることで、そのさっき二人が言ってくれた逃げていいといった意味とちょっとでなくて全然違うことだと思うし、その3人の中で一人は、その死にたいと言ったあとに笑いながら、「どっちにし

ても死にたいと言っても、死ぬ勇気ってないけん死なんけど。」と言ったんですよ、でも死ぬことって勇気じゃなくて、ただ生きることから今さっき言うたんですけど、生きることから逃げていることであって、ほんとにそういうことに関して勇気というのは生きることがすごい一番の勇気だと思うんですよ。すごい人生全然そんなに長い時間生きているわけじゃなくてわかんないんですけど、これからさきいじめじゃなくてもすごい苦しいこととかがあると思うんですよ。でもその中で、死にたいと思ってしまうことってあるかもしれないけど、でもそれをずっとそのまま死にたいと思うんじゃないくて、周りの人に相談して、死にたいじゃなくて生きたいと思うようにみんなにはしてほしいなと思いました。

G 中学校 v 私は、本当に大切な人には、ちゃんと差別とかあったらいけないよと言えるようになってきたなと思うんですけど、その前に… α がいてその α は β のことが好きじゃないから、 β がいなかったときに、「ああ今日 β 休みなん、やったーキャハハ」みたいな感じで他の子といてたのを見て、ああこれはだめかなと思って、その時は周りに人がいたので言えなかったんですけど、後からそういうことは言っちゃだめだよみたいなのを言って、理由もちゃんと説明して、わかってもらえたかなと思ってんですけど、その時は言えて良かったんですけど、これから先、今はその子とよく連絡をとるんで言えるんですけど、言えない子とかもいるんで、この子は言えるからとかじゃなくて、うまく言えないんですけど、言えたらいいなと思います。

司会者 もうありませんか。もうなかったら終わりにしたいと思います。ありませんか。

G 中学校 a b 私は友達だからこそ、そういうことを注意したり出来ると思うんです。逆

にあまり好きじゃない子に対しては愛がないから言えないと思うんです。その子がそういう差別するような言葉を言ったら、その子自身が傷ついてしまうので、だから私は友達がそういうふうに傷ついてほしくはないので注意します。でも好きじゃない人には注意できていないので、そういう人達にも愛をもって注意できるようにしたいです。

大湾さん ごめんなさいね。あと一個だけ話したいなと思うので、2時間ぐらい時間をください。うそ、うそ。まあ2、3分で終わるように頑張って、まとめます。うちにめっちゃかわいらしい甥っ子がおるんよ。今小学校5年生と4年生やけど。その子たちが、上の兄ちゃんが1年生、下の子が幼稚園の時の話なんやけどね。僕が土手に堤防に連れて行きました。堤防に連れて行って、一つ段ボールを持って行ったんね、段ボールを持って行って土手滑りをシューッとしよったんよ。ほんで上の兄ちゃん滑らして下の弟を下で待たしとったん。滑っていくだろ。ほんで兄ちゃんが滑ってきたほの段ボールを渡して弟があがってきて今度滑る、ほんでほれをまた渡して兄ちゃんが上がったきてまた滑る順番しよるうちにな、慣れていって兄ちゃんなんか波乗りサーフィンみたいにビューッと降りていきよったんやけどね、弟が下でよそを向いとったんよ。ボケーッと、その時に兄ちゃんに言いました。「あんな、今から滑るときにこういう向きで滑っておしり出して滑って行け」って言うたんですよ。ほしたら1年生の子が「恥ずかしいけん嫌じゃ」と言うたん。「恥ずかしいんわかるけれど、滑っていったら弟喜ぶぞ」と言うたら、「わかった」。それまでな、滑るときシューッと滑っていきよたんよ。兄ちゃんがこういう体制でおしり出して滑り出したらな、不思議なもんじゃ、シューッと滑らんとじわじわじわじわじわじわじわじわっていくんじゃ。おもろいのにな、弟

はって見たら、弟また相変わらずよそ見して全然見てないんよ。このままじゃうちの兄ちゃんの方のボケが殺されてしまうというふうなことで、弟に〇〇という名前なんやけど「〇〇お兄ちゃんが来よるぞ」って叫んだらな、ふっと見たらおしりがだんだん迫ってきよるんよ。おしりがだんだん迫ってきよるんみて、兄ちゃんおもろいんやけど、さらに弟おもろかったんね。そのおしり迫ってきよるん見て、こうやって叫んだ「桃が桃がやってきよる」って言うたんよな。わかるで。甥っ子たち将来的に部落差別を受けるかって思ったら、いたたまれません。今みんなこうやって笑ってくれたのは、見たことも聞いたこともない会ったこともないよううちの甥っ子を通じて、だけどその話を誰かを返してもらうことによって、笑って幸せになれただろ。人間ってほうやって会ったこともない人でも幸せにする力があるんよ。僕も甥っ子や姪っ子がいっぱいおりますけど、そんなんが不幸になったらいたたまれません。どうやったらいけるんかなというふうなことを今一生懸命に考えるうちに、去年一人女の子に出会ったん。高校生の女の子やけど、すごく嫌な嫌な思いをしたん。だけど僕が高校に講演をしに行って、



感想文に書いてくれたん。感想文で僕感動したから、その子に感想文の感想を送り返したん。携帯の電話番号とメールアドレスを書いておくれたん。ほんで学校で問題解決してもらったんやけど、その後、その問題解決の中

で女の子がな、今さっき言うてくれた。死にたいメールを送ってきたんよ。「死にたいです。しんどいです。」と言うてきました。ですから僕はこうやって送り返しました。「生きたいんやね。」送り返したん。「いやいや私死にたいんです。」って、また送ってきたん。もう一回送り返したん。「死にたい子は勝手に死にます。」って、「あなたは僕にそうやって相談してくるっていうのは、助けてくださいって言よるんだろ。どうやったら生きれますかって言よるんだろ。」って、「だから死にたくない、あなたは生きたいんじゃ、生きるためにしっかりと前向きに変わりましょう。死にたくない生きたいんじゃ。」って言いました。「しんどいところはわかるよ。だけど死にたいっていうな。」って言いました。「生きたいって言うてみ。」と言いました。すると1時間ぐらい経って、「私って生きたいんですね。」って、ころっと変わったメールがやってきました。それからその子はすごく回復していつてくれて、高校も卒業して、今、九州地方の学校に進学しています。そんなふうにね、世の中言ってもらった時に、拾えるか拾えないか。その子のほんとうの意味の部分どうなるか。それから「死にたいです」とか「リストカットしたいです」とか、「自殺未遂したいです」「もう生きるのが嫌です」ってでるかもしれないけど、その時どうしようかなって考えたときに、その子に賛同しないでください。「あつ死にたいんやな、私も死にたいよ。」一緒に死んでしまいます。けどどうやって返したらいいのか分からないときは、僕も途中で言うたように、必ずアドバイスしてくれる人がいるから、その人見つけてしっかり尋ねてみてください。絶対賛同しないでください。そうしたら一人でも二人でも生き残る子出てきます。そういう支え合いをしっかりとできるように、今しっかりみんながしなければいけないのは、隣の子同士と仲良くする。ほんとに言いたいこと言いあえる

仲間になる。そういったこと一つずつ築いていってください。自分が信頼してないから「言えない」になるんよ。相手も信頼してくれてるから、自分が言いにくいこと言うた時に絶対返してくれるから、「私のこの部分注意してくれてありがとう」って言うてくれるんがほんまの仲間であり、親友であると思います。そんな子、周りいっぱいいます。いないんじゃない。います。だからしっかりと友達関係築いて欲しいかなというふうに思います。ごめんね。ちょっと遅くなり2時間もしゃべりましたが、これで終わりたいと思います。今日はみんなの熱をもらってすごく元気になりました。この熱をどなかエネルギーに変えて電気に変えたら原発はいらんようになるかなと思うんやけど、こんな熱、いつまでも冷まさんまま、いきたいと思います。今日はありがとう。

司会者 この辺りで、全体会午後の部を終了したいと思います。みなさんご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに人権問題を更に深く考え各学校へ持ち帰ってください。それでは全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございました。

それでは、この後引き続いて閉会行事に移らせていただきたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。

